

大切な記録は、
愛おしい記憶になる。



ライフテープ

出演 隆一 朱香 珀久 フィガロ 監督・撮影・編集 安楽涼 プロデューサー 大島新 前田亜紀

音楽: RYUICHI (EP [LIFE TAPE] より) 製作: すねかじりSTUDIO 制作協力: ネットゲン 配給: 東風 2025年|101分|日本|DCP|ドキュメンタリー ©「ライフテープ」製作委員会 lifetapefilm.jp



「家族を撮ってほしい」——きっかけは祈るような幼なじみの言葉。親友として、作家として、いま撮らずにはいられなかった。
ひとときわあたたかくて、抱きしめたくなるドキュメンタリー



なぜだか誰かと生きずにはいられない私たちに手渡された とびきり大切な“ライフテープ”

「かわいい〜♡」もちりとした白い肌に何度も頬をすりよせる^{あやか}朱香。家族の未来を想い、音楽制作やダンスに取り組むアーティストの隆一。ふたりには^{はく}珀久が生まれたばかり。3人と猫のフィガロの暮らしには笑顔が絶えない。珀久は、約12万人にひとりという「メンケス病」を抱えている。銅の欠乏により様々な健康問題が生じる指定難病だ。出産から診断までの日記には現実をなんとか受け止めようとするふたりの切実な言葉が^{つづ}りのままに綴られていた。「あのときは、支えがお互いしかなかったよね」。逃げ場のない孤独と不安に向き合いつづけ、ここまで紡いできた日常——そうして家族は、珀久の喉の切開手術という大きな決断のときを迎えようとしていた。



「たとえ短い時間だったとしても、幸せに暮らしている俺ら家族を撮ってほしい」。祈りにも似た隆一の声に対して、親友として、作家として何ができるのか。自らに問いながら記録をつづけた本作は、これまで自身の経験を元に映画を制作してきた安楽涼にとって初のドキュメンタリー。座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル2025 コンペ部門で出会った審査員の大島新が惚れ込み、盟友の前田亜紀とともにプロデューサーを買って出た。些細^{ささい}なのにきっと忘れられないやり取り、ふれてはじめて伝わる体温、ちいさな変化に出くわす瞬間。他愛なくてとてつもない〈存在〉の奇蹟をいくつも積み重ねながら、映画はどこまでも軽やかに編まれていく。人が人を想う、願いを込めて優しくまなざす。カメラを見つめ返す幼子の瞳に映るこの世界は、ちゃんときらめいているだろう。

この幸せを映画にしよう、友人として一緒にいよう。
そう思って撮り始めました。公開して、
沢山の人が3人に会ってくれたら嬉しいです。

—— 安楽涼 (監督)

隆一さんと朱香さん、なんて素敵な人たちだろう。
二人の思いに応えた安楽さんも、最高にイケてるよ。
これはポップな若者たちの、愛と友情の物語。
ドキュメンタリー映画の世界に、新しい風が吹いた。

—— 大島新 (プロデューサー)



ライフテープ
lifetapefilm.jp

lifetapefilm



2026年 **3月28日** [土] よりロードショー

ムビチケ前売券(デジタル) 1,500円(税込) 12/26[金] 発売

渋谷・文化村前交差点左折
ユロスペース
EUROSPACE
03(3461)0211 eurospace.co.jp

